

寄居支部で関わった松葉による大気汚染調査

調査方法

1) 工場から近い所と遠い所の松を数本ずつ選びます

松葉は人間と同じように呼吸し、蓄積するので、年間の総量がわかります。

特定の発生源（今回は彩の国資源循環工場）からの影響を調べたいので、敷地内の松7本で1検体（100g）、敷地外の寄居町小川町の松9本で1検体とします。※今回は前回のカンパの残りで行うので、敷地内1検体。



2) 1検体として、数本の松から松葉をとります

6ヶ月以上呼吸をした松葉をとりたいので、去年の葉＝「2年葉」をとります。

松は、6月に新しい葉が出て来て、常緑樹なので、新しい葉と去年の葉が同時に付いている場合があります。

松ボックリよりも奥の葉、手前の葉よりも濃い色の葉をとります。

※通常はクロマツですが、三ヶ山周辺にはアカマツが多いので、ここではアカマツ使用。

3) 速やかに測定機関に送ります

※採取後は、あまりさわったり、放置したり、洗ったりせず、すみやかに袋に入れます。

冷暗所または冷蔵庫で保管し、できるだけ早く検査機関に送ります。

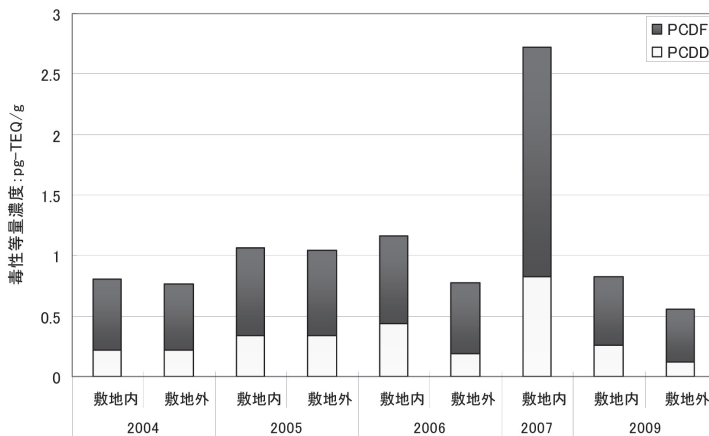
※採取日時、採取場所、松の種類など明記

4) 測定機関から、速報値、分析結果が届きます

測定結果

大気中のダイオキシン類は工場稼働後急増

ダイオキシン類の毒性等量濃度の推移
(2004～2009年度：市民調査)



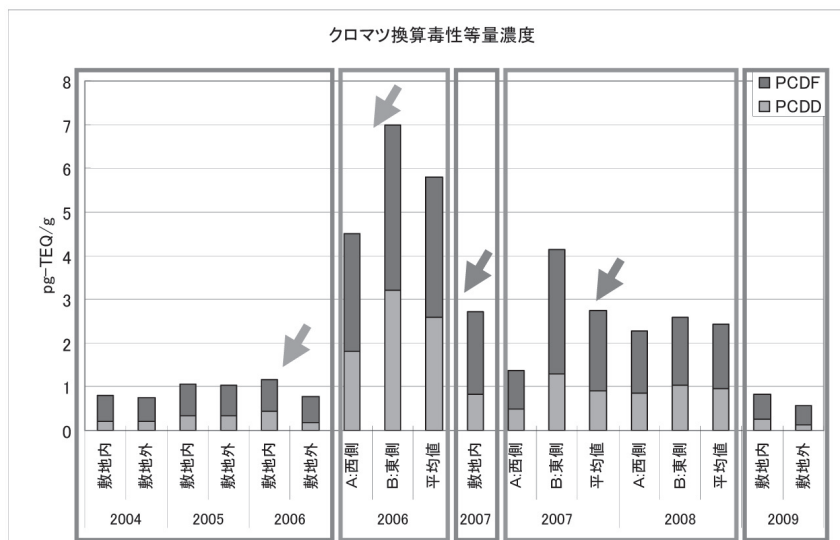
◆2004～2005年度は敷地内と敷地外の差はあまりみられなかったが、2006年度には敷地内が高くなり、2007年度には大幅に上昇した。

工場稼働前の2004年、一部稼働の2005年、2006年に9社全て稼働し、翌年の2007年にダイオキシン類が急増しました。その後2008年には工場稼働前程度に減っています※。

また、敷地内・敷地外で比較してみると、工場稼働後はどの年も敷地内の方が敷地外よりも高い値となっています。このことから、汚染の原因は敷地内にあると推測できます。

※大幅に減った2008年の敷地内はわずかに稼働前の2004年より高い。

寄居町による調査結果を含めた推移 (2004年度～2009年度：全調査)



◆2006年度調査は、市民グループの調査結果と寄居町の調査結果に大きな違いが見られたが、2007年度はほぼ同程度の濃度レベルとなった。

(2011.4 生活クラブ熊谷ブロック松葉調査報告会)

グラフは全て、(株)環境総合研究所 作成